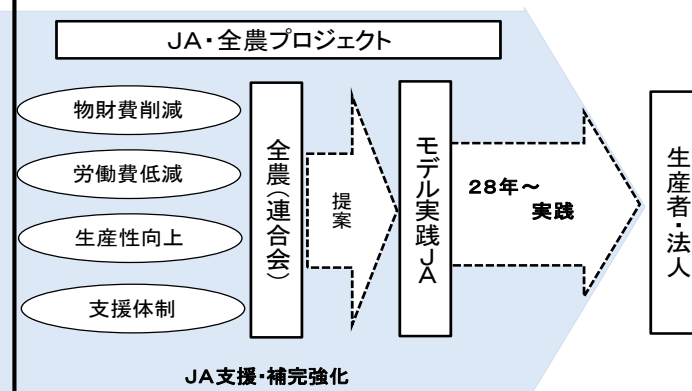


# トータル生産コスト低減の取り組み

- 平成28年度より全国の55JAで実証を開始する(農家手取り最大化の取り組み)
- 物財費削減、労働費削減、生産性向上の取組内容をJAと共有して実践する
- トータル生産コストの低減と合わせて、大規模営農モデル実証による担い手経営改善、人材育成に取り組む

## 農家手取り最大化 3つの柱

- 1. トータル生産コストの低減**
  - ☑生産資材の仕入・供給・配送等の見直し
  - ☑CE等共同利用施設の運営コストの見直し
  - ☑省力・低コスト栽培技術や新たな品種の導入
- 2. 大規模営農モデル実証による担い手経営改善**
  - ☑JA管内の大規模経営体・担い手を選定
  - ☑営農計画策定支援システム(Z-BFM)の活用
  - ☑トータル生産コストの低減策を反映
- 3. 人材育成**
  - ☑JA地域生産振興策との連動
  - ☑各種講習会の充実やネットワーク強化
  - ☑全農(連合会)の支援体制強化



区分	対象作物	取組メニュー	変動費減		固定費減		全農の主な取り組み例
			物財費減	作業時間減	収量・品質向上	物財費減	
肥料	共通	土壌診断	○		○		化学性に加えて、物理性診断推進
		低コスト肥料	○				PKセーブ、混合堆肥複合、鶏糞燃焼灰入り
		フレコン供給	○	○			
		満車直送	○				大型車で工場から農家への直送
農業	共通	BB肥料担い手受注生産	○	○			BB肥料工場でのオーダーメイド肥料の生産
		大型規格	○				約220品目
		担い手直送規格	○				7品目、水稲除草剤5ha分の直送
		体系防除	○				安価な水稲除草剤、大豆除草剤初期+畝間施用
園芸	共通	ジェネリック農薬	○				
		天敵農薬	○	○	○		バンカーシート
		天敵農薬	○	○	○		
資材	園芸	負けない商品	○				園芸用支柱、マルチ、防曇袋
		レンタル農機				○	
		JAグループ独自型式				○	
農機	共通	中古農機				○	JAグループ農機検定・中古農機査定士
		施設再編	○			○	施設総合コンサル

区分	対象作物	取組メニュー	変動費同等～増加		固定費同等～増加		全農の主な取り組み例	
			作業時間減	収量・品質向上	物財費減	作業時間減		収量・品質向上
栽培	共通	生産管理システム				○	大規模営農モデル経営体での実証	
		多収穫品種		○			飼料用・業務用(あきだわら他)	
		作期分散、拡大		○			多様な品種導入	
		直播栽培	○			○	鉄コ種子大量製造機7か所設置、展示圃	
肥料	共通	排水(給水)対策					FOEAS、土壌物理性診断の推奨	
		大豆狭畦栽培	○	○				
園芸	共通	大豆狭畦栽培	○	○				
		端境期対策		○			1～2月レタス、5～6月キャベツ、6～7月タマネギ	
肥料	共通	省力・低コスト施肥技術	○				苗箱まかせ、流し込み施肥、3作1回施肥	
		省力防除技術	○				水稲除草剤の顆粒水口処理、豆つぶ剤	
資材	共通	電気圃JA専用モデル		○			○	
		水田センサ		○		○	○	大規模営農モデル経営体での試用
		遊休ハウス活用		○			○	簡易養液栽培(トロ箱)システム「ういずOne」
		生分解性マルチ	○					
施設	園芸	地中点滴灌水		○			○	全農式点滴灌水システム(根深ネギ)
		高度施設園芸					○	ゆめファーム全農(土耕トマト40トン取り)
		高度施設園芸					○	ICT「アグリネット」による環境制御
		高度施設園芸					○	密苗
農機	水稲	高密度播種育苗			○	○		
		可変施肥			○	○		
園芸	共通	野菜収穫機				○		
		たまねぎ温風乾燥機					○	

# 大規模営農モデルの取り組み

- モデルJA管内の大規模経営体(61経営体)で大規模経営体による経営改善モデルを実証する
- 営農計画策定支援システム(Z-BFM)を活用し、土地生産性、労働生産性の向上により経営の強化を図る
- より収益性の高い水田営農モデルを実証するため、高生産性水田輪作の実証をおこなう(モデル55JAのうちの5JAで実証開始)

大規模営農モデル経営体の選定状況(平成28年6月現在)

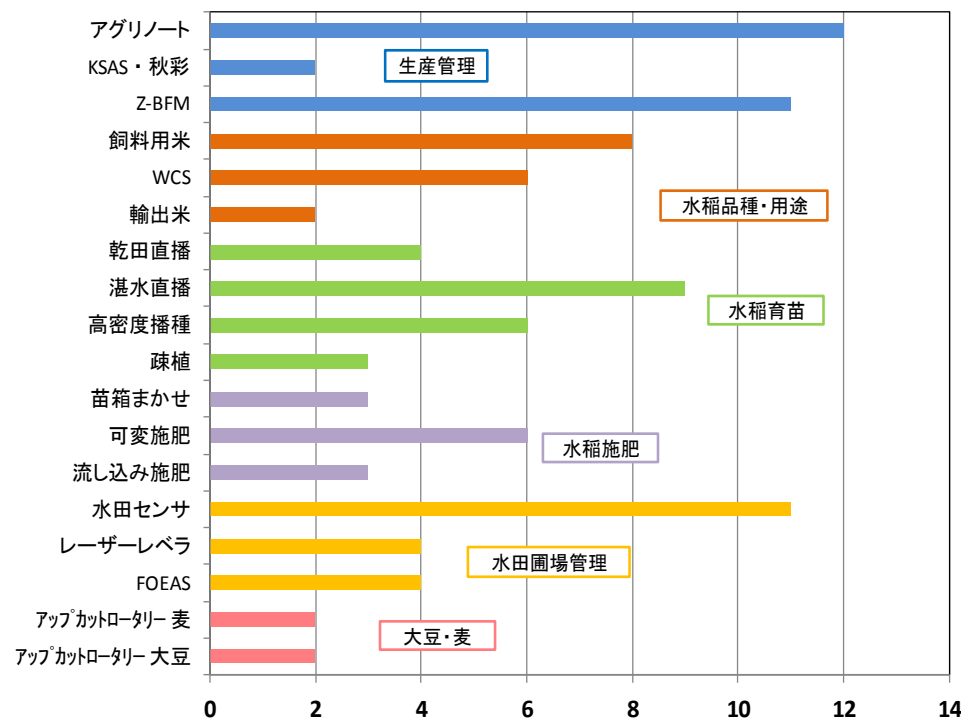
取組区分	取組県数	取組JA数	経営体数	経営体数の内訳			
				水稲単作	稲作複合	野菜他	確認中
手取り最大化	41	55					
うち、大規模営農モデル	33	40	61	2	37	5	17
うち、高生産性水田輪作	5	5	9		9		

経営体には一部作物部会を含む。

## 【高生産性水田輪作の取り組み】

- 水田の乾田化を行い、麦、大豆や野菜などを積極的に導入し、輪作により安定・多収をめざす**畑作物栽培**
- 主食用米だけでなく、飼料用米、加工用米、業務用米などを取り入れ、早生から晩生までの複合品種を導入して、低コストで安定・多収をめざす**水稲栽培**

## 稲作経営体における取組メニュー一例



# 大規模営農モデル実証事例(平成25~27年度)

## 新潟 C法人: 圃場(300か所)管理型経営の効率化

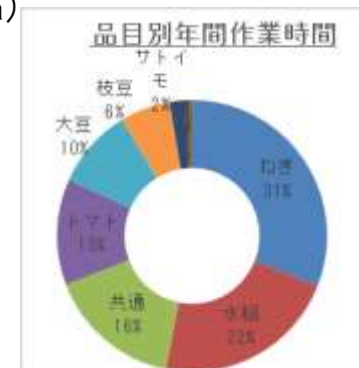
24年度(経営規模38ha、うち水稲30ha)

【粗収益】70百万円(半期)  
【農業所得】▲2百万円(半期)  
【経営課題】圃場が多い

【生産課題】粘質土で湿害・干害被害、冬季作業が少ない

27年度(経営規模38ha、うち水稲25ha)

【粗収益】63百万円  
【農業所得】19百万円  
【経営改善】Z-BFMでの改善  
(調製作業が多い生食用ネギを加工用に)  
【生産改善】FOEAS(大豆多収化)、機械化できるキャベツ、タマネギの導入



## 広島 D法人: 中山間地集落営農における省力・低コスト経営

25年度(経営規模41ha、うち水稲37ha)

【粗収益】 38百万円(半期)  
【農業所得】▲4百万円(半期)  
【経営課題】野菜へのシフト

【生産課題】水稲約1万枚の育苗  
ネギ収穫は手作業(収穫機高価)  
作土層浅く(硬盤)、排水不良

27年度(経営規模42ha、うち水稲37ha)

【粗収益】 59百万円  
【農業所得】 10百万円  
【経営改善】ハウス導入により葉菜類栽培  
【生産改善】鉄コーティング湛水直播3ha  
ネギ収穫機レンタル  
(手作業比2~3倍強)  
FOEASの導入



レンタル農機によるネギ機械収穫作業